

平成 26 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	脳タンパク質老化と認知症制御
領域代表者	祖父江 元（名古屋大学・医学系研究科・教授）
研究期間	平成 26 年度～平成 30 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、基礎から臨床に至る研究者が連携して研究を推進し、認知症や神経変性疾患といった医学的・社会的に極めて重要な喫緊の課題に対して総合的に研究しようという提案である。特に、タンパク質老化に焦点を当て、分子生物学的検討、死後脳研究、機能イメージング、再生研究など多面的な取り組みを行い、差し迫った高齢化社会の重要問題に迫る領域であり、必要性とその妥当性は高い。</p> <p>領域全体の研究計画はよく練られており、実績ある研究者で構成されている。また、他の類似した脳神経回路・疾患研究プロジェクトとの相違点についても明確に整理がなされていることが確認できた。一方で、タンパク質老化に着目しているが、タンパク質化学に精通した専門家の参画が少ないとの意見もあった。</p> <p>領域マネジメントに関しては、領域全体の研究方針の策定、企画調整、研究支援活動、アウトリーチ活動など、総括班が領域の運営を適切に行うことができる体制となっている。領域代表者はこれまでも大型研究の拠点代表を務めるなど、領域運営に対して基本的な考え方、実績を有し、各計画研究間の有機的な連携を図るためのリーダーシップを発揮する能力を有すると評価できる。</p>